こども園評価の報告書（認定こども園豊栄保育園）

評価項目	取り組み状況
教育・ 保育方針 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項 ・教育・ 保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み　等	・年度当初、「限りなく伸びていく可能性を秘めた子ども達が、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を養う」という基本理念を基に、全職員教育目標・教育方針を確認した。 子ども達が生活や遊びの中で自ら考え、体を使って意欲的に表現していけるような活動について学びを深めた。 ・幼児では、自分の思いを言葉で表すことが苦手な子どもも多いのでどんな方法があるのか（やり方、言い方、関わり方など）保育教諭がモデルとなって見せていくよう心掛けていった。 相手に対して自分の思いをどう伝えるのか、また相手の思いに気付きどうしたらいいか子ども達と一緒に考えていけるような取り組みを行うことができた。
健康支援	・6 月より毎朝 、保護者による子どもの検温を実施し、検温表を記入してもらうことで、保護者と健康面等の話をすることができ、園児一人一人の健康状態を家庭との日常的連携のもと把握できた。 また、職員間で園児一人一人の健康状態、家庭からの園児の情報を共通理解するよう努めた。 ・「保健年間計画」に基づき、園医による総合的な健康診断、歯科検診などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任が健康管理を行った。 ・保護者とは園児の健康に関して、健康観察カード、検温表等で連絡を取り合い家庭での健康管理にも気を配った。 ・保護者とのコミュニケーションを図り、家庭状況や健康状態の把握を連携しながら行えるよう努めた。
安全管理	・毎月の安全点検では火災（水消火器を使った消火訓練を含む）・地震洪水・不審者の侵入などを想定して訓練を行った。その都度担当者を中心に課題や改善点を出し合った。 ・園内の安全点検や修繕 、避難訓練、アレルギー対応等を全職員で点検やマニュアル確認を定期的に行っている 。 ・施設の安全点検は毎月1 回複数の職員で行い、修繕及び改善につなげた。 ・自然災害では、実際に避難指示が発令されたこともあったので、災害時マニュアルの再確認や職員への周知徹底をした。
食育の推進	・園内で菜園活動を行い、成長を楽しみにしながら世話をし、収穫したものを食する体験を大事にしたいと計画し進めてきた。 植え付けから水かけ等の管理まで子どもたちで行い、成長を楽しみにしてきた作物を口にするまでには、日々の細やかな愛情をかけた世話が不可欠であると、子ども達は感じることができた。 収穫した野菜は、給食で提供され、旬のおいしさを味わった。自分達が育てたということで、作物に興味を持ったり、今まで嫌いだったけれども少し食べてみようと思ったり、子ども達の意識の変化が見られた。 ・各クラスで、年齢に応じたペープサートや絵本、紙芝居などを通して食への興味、関心が育まれるようにしてきた。
関係者評価の取り組み	・評議員会では、こども園が小さい時から友達と一緒に、家庭ではできないことを経験できる場所であること、1 歳児から5歳児までの教育保育が連続性や多様性を持って行われていること、また子ども達にまかせながら自主性を育んでいる教育保育に評価をいただいた。

子育て支援 ・入所している 子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携　等	・遊びや活動の中で子ども達にどんな力を育てたいか、どんな力が育ってきているかを確認するため職員会議を持ち、意見交換をした 。 ・保護者とは日々の丁寧な会話ややり取りで子どものことを話し信頼関係を築き、子育てに悩みや不安がある時は適宜に面談を持ち、話を聞くようにした。 ・園児、保護者、それぞれ個々の状況を的確に把握することに努め、必要に応じて他の専門機関と連携し情報提供したり、子育ての不安や悩みについて共に考えたりするようにした。 ・在園児の保護者とは、出来るだけ送迎時に園児の様子の伝え合いを心掛け、足りない部分は個人連絡帳、個人面談等で補うようにし、職員も保護者と共に子育てをしているという思いであることを伝えてきた。
教育･保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境･言葉・表現	・年齢に応じたクラス保育と異年齢での活動時間を取り入れているがここ数年の間にその活動が定着しお互いの刺激となり、思いやりの気持ちやあこがれの気持ちが大きく育っていると感じる。 ・保育教諭と子どもの価値観や感じ方には違いがあり、職員が自分の価値観を当たり前として捉えず、柔軟な発想をもって違う意見を言える場があり、違いを認め合える集団を作っていくことの重要性を学んだ。 ・園児が保育教諭との信頼関係の中で、安心して園生活を送り、遊びを通して同・異年齢の友達との関係を深め、人とつながり生きる力の基礎を培うことが出来るような教育保育を目指してきた。
特別支援教育	・保護者との連携を密にし、保護者の願いや思いを十分受け止めた上で子どもを中心に据えて両者がぶれない考えで関わり、支援を進めていくようにした。 ･「 個別の支援計画 」については、保護者の思いを大切にすることを基本とし、担当者会議での情報をもとに関係機関と連携を図り作成した
職員の資質の向上	・園内での子どもの姿を話し合う中でクラスの課題を明確にし、子どもの理解を深めると共に、活動内容や職員の関わり方等を考えていった。 ・研修会については、出来るだけ参加できるよう調整し、参加者には研修報告の場を設ける等して職員が共有出来るようにした。 ・自ら考え、見通しを持った計画を立て、積極的に仕事と向き合える職員の育成をめざしてきた。限られた人員で、一つの職場を運営していくためには自分の仕事に責任を持つこと、周りを見ながら協力し合っていくこと思いやりの気持ちを持ってチームとして仕事をしていくことを大事にしたいと考える。
幼保小中の連携	・幼保小連絡会に参加し、具体的な事例を挙げながら意見交換し、それぞれの施設の役割や課題について考えた。また、切れ目のない支援をしていくために、どうつながりを作っていくかということが討議された。 伝え合いを大切にするということを確認した。 ・就学前の子どもの状況については、小学校と連携を深めてきたが、入学以降の連携についてはまだ不十分なところもあるので、今後の課題にしていきたい。 ・小学校との連携については、ほとんどが小学校主体で進められているので、自園からも積極的にに進めていけるような体制を構築していきたい。
・保護者支援・保護者の自己決定の尊重・接遇	・様々な生い立ちや生活スタイルが違う保護者の方に対して、相手の立場に立ち、寄り添いながら信頼関係を深めていけるよう、園本位での提案だけでなく保護者一人一人を尊重できるよう、職員の資質向上と接遇に努める。

以上のとおり報告します。

令和2年4月1日

認定こども園豊栄保育園
園長　黒木幸浩